

松原街道にそったまち

ひがしせんだい

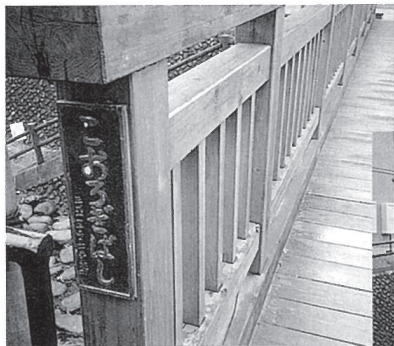
東仙台一丁目～五丁目・松岡町



く、信号に待たされる事も無く便利に利用されています。

この橋は、取り付け道路が狭く、又坂道でもあり、バイクや自転車の乗り入れが制限されています。毎年、地域の方々が交代で4月から10月まで毎月、川の清掃をしています。

(樫崎隆幸 記)



交路木(こおろぎ)橋



交路木橋の全景

なみきりふどうそん 波切不動尊

藤川の土手にお宮が建っていた。その下にお不動さんがあり、子供達などの水難事故がたくさんあったので波切不動尊などが祀られたものなのか・・・

(古関四郎さん)

なみきりふどうみょうおう (安政時代のもの)、親子金蛇水神、白竜神、穴守稲荷神の四柱が東仙台四郵便局裏の藤川のほとりに埋もれ

洋が丘モデル住宅」として販売され、住む人も増えました。住宅には水道が無く、給水タンクを作り、水当番もあったといわれています。

昭和27年、御立場に改革派東仙台教会（本部シアトル）が建てられました。昭和29年、東仙台協和会、御立場町内会が発足。この頃まで鉄砲風呂、七輪を日常的に使っていました。

昭和53年6月12日、宮城県沖地震（M7.4）発生。

壁が落ちる、屋根瓦が飛ぶ、道路が割れた（一丁目）、瓦が波打っていた、土台がずれた、サッシが外れた（二丁目）、水道・ガスが止まる等、大被害がありました。地震をきっかけに屋根を軽くしようという機運も出てきました。



昭和23年の東仙台駅前から御立場を望む（写真提供：ラ・サール・ホーム）



高野瓦屋さんの窯

粘土

案内住宅の田んぼや、東仙台駅近くの田んぼの土が、瓦に適していたので、馬車で運んできました。

案内の粘土の中から昔の石器や土器が出てきて大事に保存していたが、引越しの時紛失してしまいました。

(高野和賀子さん)

瓦の製造

昔は粘土を足で練っていたが、その後は土練機を使って、すごく便利になりました。

プレスで形が出来ると、きれいに並べて天日で一週間くらい乾かして置く、雨が降ると片付けるのが大変だった。

三代目の兄亮一は、天気を見るのが素晴らしかった。東照宮の方に黒っぽい雲が現れると「雨がくるどー」と言って急いで